



新年のごあいさつ

理事長 上野 浩也

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

旧年中は当組合の事業運営に対してご指導とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、政治では10月2日に安倍第4次改造内閣が発足し、経済面では、低金利政策のもとで企業の設備投資の増加が景気を下支える形で国内景気も拡大が続 き、個人消費も所得・雇用環境の改善のもとで緩やかな増加傾向にあるとの見通しが日銀 より発表されました。2020年の東京オリンピック関連需要はあるものの、今年10月には消費 税率が10%に引き上げられることによる個人消費の鈍化が危惧される所です。また、建設 業における人手不足は、高齢化による廃業、不景気による転職、若い世代の建設 業離れ等が要因となり、年々深刻な状況になっています。

さて、国保組合は、国庫補助金の削減、組合員の減少により財政面では危機的な状況が続 いています。毎年、組合員の減少のため組合を安定的に運営するには、組合員の増強が急 務になっています。当組合の友好団体である建設国保五府県協議会 愛知、神奈川、静岡、 新潟、京都五つの建設業関連国保組合で昨年10月に理事長会を開催し、組合員増強にテー マを絞り、短期的な施策と5年先、10年先を見据えた中長期的施策について協議を開始い たしました。中長期的施策については、今後、国保組合の上部団体である全国国民健康保 険組合協会（全協）と意見交換を行い、全協と足並みを揃えて取り組んで参る所存でござ います。各母体組合におかれましても組合員の増強について、ご意見等を賜りたく存じま す。また、特定健康診査に該当の組合員とご家族の皆様には年1回、半日ドック、定期健 診、レディース健診等の各種健診をご受診いただき健康の保持・増進に努めていただきま すようご協力をお願いいたします。

結びに、組合員とご家族の皆様におかれましては、今年が穏やかな1年であるとともに、 皆様のご繁栄を心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

監	理	常	専	副	理	謹 賀 新 年														
事	事	務	務	理	事															
事	事	理	理	事	長															
事	事	事	事	長	長															
金	益	宮	豊	澤	山	大	平	森	井	吉	瀬	長	池	細	西	木	磯	信	小	上
田	田	本	嶋	田	中	西	山	川	上	田	戸	谷	内	川	村	村	垣	吉	林	野
俊	佳	一	明	祥	良	範	賢	義	順	建	一	善	哲	義	有		秀	正	浩	
彦	進	幸	俊	広	悟	仁	重	悟	平	一	一	雄	一	夫	宜	雅	昇	起	典	也



新たな京都へ

京都府知事 西 脇 隆 俊

府民の皆さま、あけましておめでとうございます。

昨年4月、府民の皆さまからのご信託を賜り、京都府開庁から150年目の年に、第51代京都府知事に就任させていただきました、西脇隆俊です。

知事就任にあたっては、「現場主義を徹底すること」「前例にとらわれないこと」「連携すること」を職員に指示し、6月には「将来に希望の持てる新しい京都づくり」に向け、「安心して暮らしやすい社会の構築」「京都産業の活力向上」「スポーツ・文化力による未来の京都づくり」を重視した肉付け予算を編成して、府政をスタートさせました。

しかし、その直後には、6月の大阪府北部地震や7月の豪雨、9月に入ってから台風21号や24号、それに伴う強風被害や大雨など、次々と自然災害が襲いかかりました。改めて、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、被害に遭われた皆さまにお見舞いを申し上げます。

京都府では、災害後、直ちに補正予算を計上し、復興、復旧に向けた対策を講じるとともに、府民の皆さまの安心・安全を守るため、災害対応の検証を行い、先進的な防災・減災対策や治水対策、危機管理体制の強化充実など、地域防災計画の見直しを進めているところです。

一方で、昨年は、2020年のNHK大河ドラマが、京都ゆかりの明智光秀を主人公とした「麒麟がくる」に決定したことや、京都大学の本庶佑特別教授がノーベル生理学・医学賞を受賞されるなど、歴史や文化、学術のまち京都にとって、大変喜ばしい出来事も多くありました。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催や、2021年度中とされる文化庁の全面的な京都移転、そして2025年国際博覧会（万博）の大阪・関西での開催を控え、日本そして京都への世界からの注目度は、今後ますます高まります。このチャンスを逃すことなく、本年9月に開催されるICOM（国際博物館会議）京都大会等においても、京都府内各地の多様な文化資源をアピールし、「日本の文化首都・京都」を世界中に発信してまいります。

今、国内外から多くの観光客が京都を訪れています。2017年の観光入込客数は約8,700万人、外国人宿泊客数は約360万人、観光消費額も過去最高の約1兆1,900億円を記録しました。しかし、それらの多くは京都市内に集中しています。

京都縦貫自動車道の整備や新名神高速道路の新区間開通によって、南北のアクセスは格段に向上しました。鉄道やバスの利用も含め、海・森・お茶の京都、竹の里・乙訓といった「もうひとつの京都」への周遊を促すことが重要です。観光客の満足度の向上や観光地の広域連携等を盛り込んだ「京都府観光総合戦略」を策定し、府内各地に効果が波及するよう取り組みを進めてまいります。

今年の3月には、「京都経済センター」がグランドオープンします。京都府・京都市・京都経済界が「京都経済百年の計」として力を結集し、京都経済の発展を支える拠点になるものです。このセンターを核に、オール京都体制で産学官の連携や人材育成、生産性の向上に一層取り組んでまいります。

こうした明るい未来に向かって、様々な取組を推進する一方で、私たちの足元には、乗り越えなければならない課題が山積みとなっています。日本は、少子化・高齢化がますます進展し、本格的な人口減少社会に突入することは避けられない状況です。東京への一極集中も依然として続いており、地域コミュニティが弱体化する中、労働力不足も深刻です。

私は、そうした課題に臆することなく立ち向かい、全ての世代の皆さまが暮らしやすい社会の実現を目指した「子育て環境日本一」の取組等を通して一つ一つの課題解決に努めてまいります。

さらに今年は、天皇陛下が4月30日に御退位され、皇太子殿下が5月1日に御即位されます。現在、策定を進めている京都府の将来構想及び基本計画となる「新総合計画」では、新しい時代に対応した「夢のある将来ビジョン」を掲げ、次代を担う子どもたちが希望を持てる未来へのロードマップを描いてまいります。府民の皆さま、「新たな京都」に向けて共に歩みを進めてまいりましょう。

今年一年の皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



輝かしい時代のスタートを京都から

京都市長 門川 大作

あけましておめでとうございます。

昨年は、地震や豪雨、度重なる台風等に見舞われ、自然の脅威を思い知らされる一年でした。京都市でも、長期の停電、家屋や文化財・公共施設、農林、道路などに大きな被害が発生。しかし、尊い命は守られました。これは、消防団や水防団、自主防災会等の皆様の御尽力があればこそ。御尽力いただいた全ての皆様に心から感謝申し上げます。これらの災害をしっかりと総括し、今後の安心安全のまちづくりへ教訓としてまいります。改めて京都の「地域力」「人間力」を目の当たりにし、困難を乗り越えて更なる発展を遂げる「レジリエント」なまちの真髓を見出した思いです。これらの「京都力」を地域における子どもたちの学び、育ち、高齢者や障害のある方が生き生きと命を輝かせるまちづくりへ、共に生かしてまいります。

そして本年。京都のまちを更にパワーアップさせる機会が目白押しです。京都経済百年の計「京都経済センター」の開設で、中小企業・地域企業を元気に！JR「梅小路京都西駅」の開業、日本初開催となる「国際博物館会議（ICOM）京都大会」、市美術館のリニューアルオープンも来年度中に。5年連続で保育所待機児童ゼロを達成した子育て支援、指定都市トップとなった市立小学生の学力など成果を確認し、更なる充実へ。福祉、環境、景観、安心安全、伝統産業等の振興につながる観光、町家の保全、持続可能なまちづくりなど、引き続き市民の皆さんと共に汗する「共汗」で、全力投球してまいります。

ラグビーワールドカップ、東京オリ・パラ、そして2021年には世界最大の生涯スポーツの祭典「ワールドマスターズゲームズ関西」、さらに機能強化した新・文化庁の京都への全面的移転が控えています。2025日本万国博覧会（大阪・関西）の開催も決定！これらを機に、文化の力を市民の皆さんの豊かさにつなげ、持続可能な社会を目指すSDGs（「誰一人取り残さない」を理念に国連が掲げる17の取組目標）の達成にも貢献していく決意です。平成に続く新たな時代が幕を開ける本年。京都が世界の人々の幸せと平和に貢献すべく、共に。

京都府建設業職別連合国民健康保険組合の皆様はこの一年の御多幸をお祈りします。